

# 看護学校だより

浜田医療センター附属看護学校 <http://www.hamakan-nh.jp/>

## 3学年合同座談会

～男子学生の本音、聞かせてください～

参加者：3年生…大谷 涼太郎君、井田 菖太君  
2年生…佐藤 文哉君、西川 龍平君  
1年生…佐々木 駿君、森脇 琢哉君  
教員：隈部 直子



**教員：**月並みですが、看護師を目指そうと思ったのはなぜですか？

**西川君：**母も看護師、祖母も看護師という中で育ったので、中学生の頃から看護師になるという思いに揺らぎはありませんでした。早く働きたいから専門学校に行くことにしました。

**井田君：**祖父が入院した時の看護師の対応に憧れました。

**佐々木君：**僕も身内の入院時の看護師の対応に憧れました。あと、兄も大田市立病院で看護師をしています。

**森脇君：**父が救急救命士、姉が看護師という家庭だったので、自然と看護師を選んでいました。必ず地元の邑南町に帰って、看護師として貢献するつもりです。

**佐藤君：**弓道部の先輩が看護師を目指していて、その影響がありますかねー。あと、男性看護師は数が少ないから、職を失う心配がないというのもありました。

**大谷君：**高校2年生の時、サッカーで怪我して入院した際、担当が男性看護師でいろいろ話すうちに自分も看護師を考えるようになりました。ちゃんとした仕事をして迷惑をかけた人たちに恩返ししたいというのはあります。



1年生 佐々木 駿君

**教員：**看護学校の理想と現実というのは何かありますか？想像していた学校生活と現実のギャップとでもいいますか…

**佐々木君：**技術試験がかなりハードです。1つ終わったら、また次の試験があるので…。準備も大変です。

**森脇君：**看護学校で何をするのかというイメージもあまりなかった…。ちょっと驚きました。

**大谷君：**実習もハードです。僕も人一倍努力してきました。レポートのために徹夜で頑張らなければならないこともあり、「2徹すれば何とかかなるかなー」とか「おっ、今日は2時間は寝れるな（歓喜）」という感じになります…。

**井田君：**そうそう、徹夜にも慣れざるを得ない…ハハッ（苦笑い）

**教員：**2日間全く寝てないってことはないでしょ？

**井田君：**そうですね～。（はにかみながら）ちょこちょこは寝ているかもしれません…。

**西川君：**2年生は、今は特に大変なことはないかなー。行事とかはがんばっています。実習では、看護師さんが熱心に、時に厳しく指導して下さることに驚きました。

**教員：**愛情のある厳しさだということは分かりますよね？

**西川君：**そうですね。厳しい指導の後には、さりげなくフォローして下さったり…。

**大谷君：**そうそう、病気や治療に関してはとても分かりやすく教えていただけるので感謝しています。



1年生 森脇 琢哉君

**教員：**男子看護学生あるいは男性看護師に何が期待されていると思いますか。

**大谷君：**「男性のほうが話しやすい」と言われる患者さんもいます。

**井田君：**僕は移乗・移送など力仕事では役立っていると思います。



3年生 井田 菖太君

**教員：**女性が大半を占めるクラスの中ではどのような役割を果たしていますか？女子学生とうまくやっていくために努力していることなどありましたら教えてください。

**佐々木君：**女子とは偏りなく接するようにしています。どこかに

偏ると…(もごもご)。

**大谷君**：中立が大事です!!  
—全員が「そうそう。中立、中立。」と頷く—

**森脇君**：噂話とか聞いても加わらずに、「そうなんだ〜」と流します。

**大谷君**：否定も、肯定もしない!!

—全員が「そうそう。否定も、肯定もしない!!」と頷く—



2年生 西川 龍平君

**教員**：最後になりましたが、看護師としての将来設計を教えてください。

**佐藤君**：精神科で働きたい。じっくり1対1で向き合う看護をしたいです。

**井田君**：まずは奨学金を返還し、お金を貯めて…。他の病院に行ったりとか…。男性は、さらに看護の専門性を深めなければならぬというイメージもあります。



2年生 佐藤 文哉君

**西川君**：僕もまずは奨学金を返したいです。3年間働いて、それが済んだら、もっと勉強したいので岡山あたりの少し大きめの病院で働いてみたい。

**佐々木君**：僕は地域医療に貢献したいので、地元で

働きたいです。島根は住みやすい。

**森脇君**：僕も地元に戻り、看護師としての経験を積んだら、いずれは介護施設で長く働きたいです。

**大谷君**：実習に行くたびに、自分の無能さを思い知らされました。だから今は、将来設計というより、就職してからやっていけるのかという思いが強いです。基礎の基礎からやり直したいです。

そして、ゆくゆくは、地元の三瓶が過疎地なのでそこで在宅看護をして地域のおじいちゃんやおばあちゃんに恩返しがしたいと思っています。

**教員**：今日はありがとうございました。最後に何かご要望があれば…

**大谷君**：(小声で) 記録物を減らしてほしい…。あっ、いや、何でもないです。

男子学生が増えてきたので、更衣室を広くしてほしいです。窓も無いし、体育の授業の後、サウナ状態です。話し声は女子に聞かれるような造りですし…。“更衣室こそ俺らの空間”で唯一リラックスできるオアシスなのに、女子に聞かれると困るから抑え気味に話しています。

**教員**：「中立」守らないといけませんね…。

—全員頷く—



3年生 大谷 涼太郎君

座談会を  
ふり返り

106名中、17名と少数派の男子学生さんたちが、日頃どのような気持ちで学校生活を送っているのか良く分かりました。看護師になろうと思った動機や看護師としての将来設計など、みなさんととても真面目に考えていて、その純粋な気持ちに感動しました。男子更衣室が狭いことなど学校としても考えていかなければならないことに気づかされました。

